

Veeam と SMB 向けベンダーの比較： VM のバックアップ 機能比較一覧

本資料は、仮想マシンのデータ保護において Veeam® が提供している独自の機能と、SMB に特化したバックアップベンダーの一般的な製品 (Acronis、Altaro、Arcserve、Druva、Nakivo、Unitrends、Veritas Backup Exec など) を比較したものです。

SMB に特化したバックアップベンダーは、非常に低価格で初期費用がシンプルといったメリットはありますが、一方でビジネスニーズに応じてデータ保護を最適化するのに必要な機能や柔軟性、カスタマイズは提供していません。また、IT の拡大に合わせてビジネスで必要となるスケーラビリティも備っていません。

そこで、Veeam が提供する仮想マシンのデータ保護機能と、SMB に特化したバックアップベンダーを比較し、以下の表にまとめました。

機能	Veeam	他社製品	詳細
復元			
VM 全体、VM ファイル、仮想ディスク、ゲスト OS ファイルのリストア	✓	✓	Veeam: VM 全体、仮想マシン (VM) の個々のファイル (VMX など)、仮想ディスク、ゲスト OS ファイルを 1 つのバックアップから復元。 他社: ほぼ全てのベンダーで、VM 全体、VM ファイル、仮想ディスク、ゲスト OS ファイルの復元が可能。
複数 VM、クロスプラットフォームに対応したあらゆるワークロードのインスタントリカバリ	✓	✗ ~ ⚠	Veeam: 物理サーバーやクラウドベースのインスタンス、複数の VM など、あらゆるワークロードをバックアップから直接実行して、VMware vSphere や Microsoft Hyper-V に即座に復元。 他社: VM の迅速な復元はほとんどのベンダーで可能だが、VMware や Hyper-V の VM 以外のワークロードで迅速な復元ができるベンダーは数社しかない。こうしたベンダーでも、迅速な復元ができるのは物理サーバーのみであることが多い (ワークステーションやクラウドインスタンスなどのワークロードの迅速な復元はできない)。
アプリケーションアイテムのエージェントレスな復元	✓	✗ ~ ⚠	Veeam: Microsoft Exchange、SharePoint、SQL、Active Directory、Oracle といったアプリケーションのバックアップから個々のアイテムを復元。 他社: 半数のベンダーでは、アプリケーションアイテムのきめ細かな復元はできない。可能なベンダーでも、アプリケーションアイテムの復元にはエージェントが必要で、復元オプションが限られていることが多い (アイテムをバックアップサーバーにダウンロードするだけ)。
データベースのインスタントリカバリ	✓	✗	Veeam: Microsoft SQL や Oracle のデータベースを、サイズの大小を問わず本番環境に即座に復元することでダウンタイムを排除。高度な切り替えオプションで、復元完了後の本番環境への切り替えもスムーズ。 他社: データベースを、バックアップの場所から直接実行して、本番環境にシームレスに切り換えることで即座に復元できるベンダーはほとんどない。
Oracle RMAN と SAP HANA のネイティブな復元	✓	✗ ~ ⚠	Veeam: SAP HANA と Oracle RMAN のネイティブの機能を利用して、きめ細かいバックアップと復元が可能。 他社: 半数のベンダーでは、Oracle RMAN や SAP HANA のアイテムをリストアできない。可能なベンダーでも、そのようなデータのリストアにはエージェントが必要で、リストアオプションも限られている。
ストレージスナップショットからの復元	✓	✗	Veeam: 個々の VM やゲストファイル、アプリケーションアイテムをストレージスナップショットから復元。 他社: ストレージスナップショットからデータの復元ができるベンダーはほとんどない。ごく一部のベンダーでは、ストレージスナップショットからのデータの復元は可能だが、対応しているアレイはわずかで、復元オプションも限られている (つまり、アプリケーションアイテムのきめ細かな復元はできない)。

機能	Veeam	他社製品	詳細
パブリッククラウドとオブジェクトストレージへのリストア	✓	✗ ~ ⚠	Veeam: AWS 、 Microsoft Azure 、Azure Stack などのパブリッククラウドに直接データを復元。 他社: 半数以上のベンダーでは、パブリッククラウドへのデータ復元ができない。可能なベンダーでも、Veeam より手動の操作が多かったり、1 つのクラウドプラットフォームにしか対応していなかったりすることが多い。
バックアップ			
アプリケーションを認識したイメージベースのエージェントレスなバックアップ	✓	⚠	Veeam: アプリケーション認識処理で、アプリケーション整合性のあるイメージレベルの VM バックアップをエージェントなしで作成。 他社: ほとんどのベンダーでアプリケーション整合性のある VM バックアップをエージェントなしで作成できるが、Veeam が対応しているアプリケーションの全部はサポートしていない。アプリケーションアイテムのきめ細かな復元にはログ処理やアプリケーション認識が必要だが、ログ処理やアプリケーション認識にエージェントが必要なベンダーもある。
バックアップ I/O コントロールとネットワークの最適化	✓	⚠	Veeam: パラメータをバックアッププロセスで使用するリソースの量に設定し、本番環境への影響を最小化。 他社: 本番環境のデータストアに対して最大 I/O レイテンシレベルを設定して、バックアップがユーザーに影響を与えないようにできるベンダーはない。ネットワークの消費量の調整はほぼ全てのベンダーで可能だが、特定のレベルにしか設定できず、きめ細かい設定はできないことが多い。
バックアップのコピー	✓	✓	Veeam: 既存のバックアップデータを別のディスクシステムにコピーしてセカンダリ・バックアップ・コピーを作成。バックアップデータを、異なるハードウェアを使用しているオフサイトの場所に送信する。 他社: 全ベンダーで、既存のバックアップデータを別のリポジトリにコピーすることができる。
ゲストファイルシステムのインデックス作成と検索	✓	✗ または ✓	Veeam: ゲストファイルのカatalogを作成することで、復元対象の個々のファイルのきめ細かい検索が可能。 他社: バックアップ中またはバックアップ後にファイルシステムのインデックスを作成し、復元対象の個々のファイルのきめ細かい検索が可能なベンダーは半数しかいない。
ストレージスナップショットからのバックアップ	✓	✗	Veeam: イメージベースのバックアップを必要に応じて ストレージスナップショット から作成。本番環境への影響も最小限。 他社: ストレージスナップショットからバックアップを作成できるベンダーはほとんどない。可能なごく一部のベンダーでも、アレイはほぼサポートしていない。
バックアップの復元力の検証	✓	✗ ~ ⚠	Veeam: 保護されている VM の復元力についてテストをスケジュールし、分離環境にあるバックアップファイルから VM を直接実行することで自動でテストして 検証 。アプリケーション検証用の組み込みスクリプトも搭載。 他社: 半数のベンダーでは、保護されている VM の復元力を検証できない。可能なベンダーでも、提供しているのは分離された環境での基本的なテストで、高度な検証テストはできなかったり、自動または柔軟性の高い検証スケジュール設定はできなかったりすることが多い。
クラウドやオブジェクトストレージへのアーカイブによる長期の保持	✓	⚠	Veeam: AWS や Microsoft Azure、IBM Cloud、オンプレミスの S3 互換オブジェクトストレージとのネイティブのホット・ オブジェクト・ストレージ統合 で、 クラウドへのバックアップを階層化 。投資対効果に優れた長期の保持が可能。コールド・オブジェクト・ストレージにバックアップを階層化することで長期の保持にかかるコストを削減。 他社: クラウド・オブジェクト・ストレージにバックアップを階層化することで長期の保持に対応するベンダーはごくわずかである。対応しているベンダーでも、独自のクラウドや特定のパブリッククラウドしか利用できず、柔軟性の高いバックアップの階層化設定がなかったり、クラウドに格納されているバックアップのリストアオプションが限られていたりすることが多い。ホットのストレージクラスからコールドのストレージクラスへの自動階層化機能を提供しているベンダーは、非常にまれ。
クラウドとオブジェクトストレージへのバックアップのコピー	✓	⚠ ~ ✓	Veeam: AWS や Microsoft Azure、IBM Cloud、オンプレミスの S3 互換オブジェクトストレージとのネイティブの オブジェクトストレージ統合 で、 オブジェクトストレージへのバックアップのコピー とポリシーベースによるコピー管理が可能。 他社: クラウド・オブジェクト・ストレージへのバックアップのコピーはほとんどのベンダーで可能だが、対応しているクラウドプラットフォームがわずかだったり、バックアップコピーの詳細な設定ができなかったり、クラウドに保存されているバックアップからのデータ復元オプションが限られていたりすることが多い。ホットのストレージクラスからコールドのストレージクラスへの自動階層化機能を提供しているベンダーは、非常にまれ。

機能	Veeam	他社製品	詳細
スケーラブルでストレージを選ばないNASのバックアップと復元	✓	✗ ~ ⚠	<p>Veeam: NASの保護を最新化し、ベンダー固有のAPIやNDMPを使用することなく、ファイル共有を任意の場所にリストア。ネイティブの変更ファイル追跡機能も実装しており、RPOを向上。NASの即時パブリッシュで、ハードウェアの障害や交換、移行に関連するダウンタイム中も、サイズの大小を問わず重要データにアクセス可能。</p> <p>他社: 一部のベンダーではNASデータの保護はできない。可能なベンダーでも、特定の数種類のNASデバイスしか保護できないことが多い。これは、変更ブロック追跡(CBT)のような機能がいないために、NDMPを使用したり、非効率であったりするため。</p>
書き換え不能機能によるランサムウェア対策	✓	✗ または ✓	<p>Veeam: 書き換え不能なバックアップのコピーを、ハードウェア非依存の強化Linuxリポジトリでオンプレミスに、またはAWSのオブジェクトロック機能でクラウドに作成。オブジェクトロック機能は、別のS3互換オブジェクトストレージソリューションでもサポート。</p> <p>他社: 半数のベンダーでは、書き換え不能なバックアップコピーの作成ができる。大半は、クラウドでしか書き換え不能のバックアップを作成できず、使用するのもAWSのオブジェクトロック機能のみ。</p>
レプリケーション			
VMレプリケーション機能が主要製品に内蔵	✓	⚠	<p>Veeam: Veeam Backup & ReplicationにはVMのレプリケーションとバックアップの両方の機能が搭載されているため、VM以外の環境の保護に使用しているのと同じ製品を使用して重要なVMの保護が可能。シンプルなデータ管理を実現。</p> <p>他社: ほとんどのベンダーでVMレプリケーションを自社の主要なバックアップ製品に統合しているが、追加料金が発生したり、VMwareしかサポートしていなかったり、(本番のVMからではなく)バックアップからのVMレプリケーションしかできなかったりといった制限があることが多い。</p>
継続的データ保護によるVMレプリケーション	✓	✗	<p>Veeam: VAIO ベースの継続的データ保護(CDP)機能で、ビジネスクリティカルなVMも秒単位のRPOでレプリケート。レプリケーション頻度もカスタマイズ可能で、どんなRPOも達成。リストアポイントは無制限、かつ秒単位で細かく設定可能。どんな時点にもデータを復元可能。</p> <p>他社: VAIOと統合して秒単位のRPOを実現しているベンダーはほとんどない。ほぼ全てのベンダーが、レプリケーションにはVMベースのスナップショットを利用している。</p>
フェイルオーバーやフェールバックの支援	✓	✗ ~ ⚠	<p>Veeam: データセンターの移行や予定済みのフェイルオーバー、フェイルオーバーのテストを円滑化。データ消失もゼロ。</p> <p>他社: フェイルオーバーやフェールバックの支援を提供しているベンダーは一部しかなく、その機能も基本的なものにとどまっている。ほとんどのベンダーでは、フェイルオーバーやフェールバックを完了させるには手動の操作を必要とする。</p>
レプリカの復元力の検証	✓	✗	<p>Veeam: レプリカVMの復元力について、テストをスケジュールし、分離環境にあるVMを直接実行することでテストして検証。アプリケーション検証用の組み込みスクリプトもサポート。</p> <p>他社: レプリカの復元力を検証できるベンダーはほとんどない。ごく一部の可能なベンダーでも、提供しているのは分離された環境での弱いテストで、高度な検証テストはできなかつたり、自動または柔軟性の高い検証スケジュール設定はできなかつたりすることが多い。</p>
高度な機能			
組み込みのデータ削減機能	✓	✓	<p>Veeam: 重複排除機能、複数の圧縮オプション、スワップ除外機能内蔵で、バックアップストレージ要件とネットワークトラフィックを削減。</p> <p>他社: 重複排除機能と圧縮機能が何らかの形で搭載されており、バックアップストレージ要件とネットワークトラフィックの削減は全てのベンダーで可能。スワップファイルや削除済みファイルの除外ができるベンダーは数社しかない。</p>
ストレージインテグレーションの重複排除	✓	⚠	<p>Veeam: バックアップを格納し、サポートする重複排除ストレージアプライアンスで高度なバックアップ・復元統合を利用。</p> <p>他社: 重複排除アプライアンスと統合するベンダーは半分しかおらず、統合できるアプライアンスもVeeamより少ないことが多い。</p>

機能	Veeam	他社製品	詳細
エンド・ツー・エンド暗号化と紛失したパスワードの復元	✓	✓	Veeam: バックアップデータやレプリカデータ、ネットワーク転送は、AES 256-bit 暗号化で、ソース側にあるときや送信中、転送後も安全性を保障。パスワードの紛失時もデータを復元。 他社: 送信中と転送後のデータの暗号化は全てのベンダーで可能。一部のベンダーでは、パスワード紛失時のデータの復元も可能。
ネイティブのテープ・デバイスサポート	✓	⚠	Veeam: ファイルや VM バックアップを、 スタンドアロンのテープ 、 テープライブラリ 、 仮想テープライブラリ にバックアップしてアーカイブ。 他社: ほとんどのベンダーでバックアップをテープに保存することはできるが、テープの管理機能が限定的だったり、テープからの復元オプションが限られていたり(テープから直接リストアできない)、別の製品が必要だったりなどの制限があることが多い。
Scale-out Backup Repository	✓	✗	Veeam: 制限のない高い拡張性で、2つ以上のデバイスから バックアップストレージに単一の仮想プール を作成。 他社: 制限のない高い拡張性で、2つ以上のデバイスからバックアップストレージに単一の仮想プールを作成できるベンダーはない。

データの活用

統合型テスト/開発サンドボックス	✓	✗	Veeam: 分離環境で、1つ以上の VM をバックアップから実行。本番環境の作業用コピーを使用して、事業運営に影響を与えることなくトラブルシューティングやテスト、トレーニングに利用。 他社: 分離環境で VM を実行して、本番環境の作業用コピーをトラブルシューティングやテスト、トレーニングに利用できるベンダーはない。
高度なデータ統合 API	✓	✗	Veeam: サードパーティのアプリケーションとスクリプトを有効にすることでデータ・マネジメント・エコシステム全体を接続。安全なオンデマンドサンドボックス内のあらゆる Veeam バックアップコンテンツに即座にアクセス可能。 他社: 安全なオンデマンドサンドボックス内にあるバックアップコンテンツに対して、サードパーティアプリケーションによるアクセスを可能にする API を提供しているベンダーはない。
Staged Restore	✓	✗	Veeam: 本番への復元時に、分離されたサンドボックス内で VM に カスタムスクリプトを挿入 。コンプライアンス対応に役立ち、機密データの削除や DevOps のデータマスキングを行う。 他社: 本番への復元時に分離されたサンドボックス内で VM にカスタムスクリプトを挿入して、復元前にデータを編集できるベンダーはない。
Secure Restore	✓	✗	Veeam: 既存のウイルス対策ツールやマルウェア対策ツールを利用して、本番に リストアする前にバックアップファイルから VM のスキャンを実行 。 他社: 本番にリストアする前に、ウイルス対策ツールやマルウェア対策ツールを利用してバックアップファイルから VM のスキャンを実行できるベンダーはない。

凡例

✓	対応	⚠	一部対応	⚠	対応しているが実用的でない	✗	非対応
---	----	---	------	---	---------------	---	-----